

書 籍 館

CONTENTS

- 書を携え、町へ出よう——
商学部教授 青木 真美先生 …………… 2
- 学生座談会 私の図書館利用について…………… 4
- 統計で見る 同志社大学の図書館…………… 6
- INTERVIEWS
グローバル・スタディーズ研究科 イヤス・サリムさん… 8
- 所蔵資料紹介
デューイ文庫(The John Dewey & Pragmatism Collection)について
文学部教授 新 茂之先生 …………… 10



書を携え、町へ出よう——

地図と時刻表から始まる迷宮

商学部教授 青木 真美 先生



1. 町を読み解くツール

自分の専門分野(交通経済学、都市交通)の関係から、現場に行ったりフィールドワークをよく行う。授業で説明したり、いろいろな場で意見を述べたりする場合には、現場を見なくてはならないと自ら課しているところもある。

そこで役に立つのが、ガイドブック、地図や路線図、鉄道や航空の時刻表である。ガイドブックは、編集により情報が選別されているが、誰もがそれを納得して使っているものだろう。例えばフランスのミシュランガイド(緑色)は、その地域の観光案内としては、名所旧跡の案内と景観眺望などの解説に徹しており、宿泊や飲食については別の赤色の本で紹介している。それに対して日本で発行されているガイドブックの多くは名所や町並みの案内よりも、飲食やみやげ物に重点が置かれていることが多い。物見遊山でおみやげをたくさん買い込む、日本人の旅のあり方を反映しているのかもしれない。

ところが、本来ならば価値判断とは無縁で事実のみを淡々と伝えるはずの地図や路線図にも、いろいろな意図が潜んでいることが多い。

解りやすいのは、独裁国家や旧社会主義国家時代の地図には戦略的に重要な拠点や施設が記載されていなかったり、地図そのものが発行されていなかったりすることだ。地図そのものが重要な情報源と認識されているからだろう。一昨年ベトナムのホーチミン市で現地の地図を探したら、ごく簡素化されたものしか見当たらなかった。ベトナムは経済面ではかなり自由な活動ができるとはいえ、社会主義国家なのだと改めて実感したものである。

また、地方自治体の発行する地域地図は自分の行政区画だけのものが多く、周辺の市町村が白紙になっていて、お役所の縦割り、縄張り意識を見せつけられるようで、違和感がある。

時刻表も国によって千差万別で、日本の時刻表には以前は駅名のインデックスがなく、自分の行きたい駅の路線やおおよその位置がわからないと適切なページにたどり着けなかった。子供のころから家庭に時刻表があったので、時刻表を読みこなすノウハウ(リテラシー)は、誰もが持っていると思っていたが、実はそうではないことを知った時には驚いたものだ。

地図や時刻表が、価値判断から自由なものと思っていると、思わぬ^{かんせい}陥穽におちいることも多いのである。



『Die städtebauliche Entwicklung Berlins seit 1650 in Karten BERLIN』(Senatsverwaltung für Stadtentwicklung und Umweltschutz, BERLIN, 1992)

『Berlins S- und U-Bahnnetz - ein geschichtlicher Streckenplan』(Edition Gauglitz, 2001)

観光地や見どころが案内された緑色のミシュランガイド

『MICHELIN Deutschland Bundesrepublik und Berlin』(Michelin, 1970)

『MICHELIN Deutschland』(Michelin, 1992)



『帝都東京・隠された地下網の秘密』秋庭俊 著 (洋泉社, 2002)

大田園 第3開架 516.72 || A9587



『トーマスブック ヨーロッパ鉄道時刻表 10夏・秋』
地球の歩き方編集部 (ダイヤモンド社, 2010)



『東日本大震災 復興支援地図』
昭文社出版編集部 (昭文社, 2011)

DOCH# 女田図 開架・大型本
369.31 || H9311
DOCH# 人文研 人文研
369.31 || H9311



『書を捨てよ、町へ出よう』
寺山修司 著 (角川書店, 1975)

DOCH# 女今図 文庫・新書 914.6 || T586



『アンドレ・ジイド全集 第2巻』
アンドレ・ジイド 著 今日出海ほか訳
(新潮社, 1950)

DOCH# 大今図 B2階書庫 958 || G100 || 2



2. 紙媒体の一覧性

地図や時刻表はまた、書物の持つ一覧性を具現している非常に良い事例だと思う。現在はインターネットで地図や時刻表を閲覧できるようになっているが、利用する側かなりの知識がないと、利用できないことが多い。時刻表の場合、出発駅と到着駅、時間帯を指定して検索するものが多いが、印刷された時刻表なら、前後の列車や列車の始発駅、終着駅などがすぐにわかるのに、このシステムだとそうはいかない。ごく初期のネット上の時刻表として、印刷されたページをそのままPDF化して掲載したものがあつた。検索はしにくいものの、今となってはそちらの方がましに思える。

地図も、自分の知りたい所がおおよそどのあたりにあるか、という見当がついていないと、画面に表示された地図上で探し出せないことが多い。京都市の場合、郵便番号を利用すると、〇〇区〇〇町〇〇番地、という表示で郵便物などが届き、よくつかわれる〇〇通△△上とか□□通××東入るといったような通りの名前は現在必要ではない。ところがネット検索できる地図も通り名は省略してしまっているので、逆に町名がわからないと検索できないという不便なものになってしまった。

電子媒体の普及が、紙媒体の書籍の存在を圧迫し、雑誌の休刊も相次いでいるようだが、最近はホームページやブログで評判を得て、書籍化された例も多く見受けられる。書籍の「全体を鳥瞰的にみることができる」一覧性や「いつでも手にとってみることができる」保存性といった資料としての長所のほか、紙の質感や色彩、厚さ、重さなどの物理的な存在感、内容についても必ず複数の人の目を通じてチェックされているという信頼性などの点で、電子媒体よりも秀でた面が多く、書籍という文化は絶対に生き延びると思っている。



3. 『書を捨てよ、町へ出よう』

本稿のタイトルは、劇作家で詩人の寺山修司が1967年に発表した評論集『書を捨てよ、町へ出よう』をもじったものである。寺山は、劇団「天井桟敷」を主宰しており、当時の若者のカリスマ的存在だった。本のほかに、映画や演劇でも同じタイトルのもので(内容はそれぞれ異なる)を制作している。

図書館報に寄稿を、と言われた時に真っ先に浮かんだのがこのタイトルだった。図書館利用の勧めという趣旨には反すると思われるかもしれない。しかし寺山は「書を捨てよ」と謳っているものの、その実は、学生時代に病を得て療養生活を過ごしたのちに、書齋にこもるような読書三昧の生活から脱して、生きる実感を求めて実社会へ出ていこうとした本人の体験に基づいているもので、書物から十分に学んだ後、町に出ようということなのだ。

つまり、本の知識だけに頼らず、社会に出ていき経験を積もう、という意味であり、このことは、寺山も明らかにしているように、フランスの小説家アンドレ・ジイド(ジイドとも表記)がアフリカ旅行の体験をもとに著した散文詩集『地の糧』の冒頭に書かれている。ジイドは旅によって、知識の破壊活動が起こる、それは有益であるともいっている。

いったん獲得した知識や知の体系を解体し、再構築するための試みが町へ出る(旅に出る)ということで、『書を捨てよ、町へ出よう』とは、印刷物ではなく、町という実社会を体験しようということではないのだろうか。

町という名のいわば別の書物を読み解くためにも、地図や時刻表、ガイドブックといった、やや使いこなすのにコツがある水先案内人にも親しんでほしい。

図書館からの お知らせ

大学図書館にも、地図や時刻表、ガイドブックがあることを皆さんはご存知ですか？
図書館資料を活用して、素敵な冬休み・春休みの計画を立ててください。

配架場所 **今出川図書館**：参考図書室
ラーネット記念図書館：地図…参考コーナー
時刻表、ガイドブック…雑誌コーナー



私の図書館利用 について

～同志社大学図書館への期待～

同志社大学で学ぶ学生の
皆さんにとっての図書館とは？
日々の利用の仕方から図書館に対する期待まで、
現役学生に語ってもらいました。

どれくらいの頻度で図書館を利用している？

小川 本日は座談会にご参加いただきありがとうございます。それでは早速ですが、自己紹介と大学図書館の利用頻度を教えてください。

浅尾 神学部神学科4年生の浅尾雅俊です。登校した日は図書館に立ち寄って、おもしろそうな本がないかと本棚を眺めています。

上田 初めまして、法学部政治学科3年生の上田麻里衣です。3年生になってから、ゼミの準備のために図書館を週に1回ぐらい利用しています。

増淵 経済学部経済学科4年生の増淵大良輝です。図書館の利用頻度は時期によって異なりますが、月に5回程度でしょうか。主に資料収集に使っています。

小川 皆さん、目的も頻度もそれぞれですね。それでは、図書館を利用するにあたって、資料の調べ方などの講習会に参加したり、レファレンスカウンターで相談したりしたことはありますか？

増淵 図書館での講習会には参加したことがありません。図書館の利用の仕方や資料検索の方法は1年次の基礎ゼミの授業で一通り習ったためです。

浅尾 講習会に参加したことはありません。レファレンスカウンターは、探している資料について断片的な情報しか持っていない時に特に利用しています。

上田 私は、「レポート・卒論テーマ探索の術」と「洋文献へのアプローチ」の講習会に参加しました。ゼミでこれから論



学術情報課 資料収集係
小川里奈さん

文を書いていくために文献を探す方法を知りたかったからですが、丁寧に教えてくださって感謝しています。レファレンスカウンターを利用したことはありません。

DOORSなど、図書館のもっと便利な使い方とは？

小川 図書館の資料と、自分で購入する資料は違いますか？例えば、授業で使う教科書などは、どうされていますか？

増淵 教科書は基本的に自分で購入します。ゼミの研究や、レポート課題に取り組む際には、資料・参考文献として図書館の図書や雑誌を用います。

浅尾 授業関係の図書は図書館で見つけるようにしていますし、自分で買おうと思っている本を前もって手に取ってみたりと結構図書館を活用しています。

上田 授業で指定された本は学校の書籍部で買いますが、授業に関連して興味を持った事柄をもっと知りたい時は、図書館のDOORSを使って図書を借りたり、「CiNii」(NII論文情報ナビゲータ)を利用して論文を読みます。研究テーマが現在進行形で進んでいるものなので、本になった資料があまりなく、いろんな論文を探して参考にしなければいけないので、「CiNii」はよく使います。

小川 上田さんは図書館のホームページも活用していたらいいですね。他のおふたりはどうですか？ホームページのほか、データベース、電子ジャーナルは利用されますか？

浅尾 ホームページは図書の返却日を調べたり、家にいる時に本を検索するのに使っています。

増淵 資料を集める時など、授業関



経済学部経済学科4年生
増淵大良輝さん



係のものは図書館にあるか分からないので、それを調べてから図書館に来ます。貸出中であれば予約をするために利用しています。データベースは、論文を探す時に「CiNii」を使って論文のPDFを印刷します。新聞も探しやすいので、過去の新聞記事を印刷して使っています。

小川 将来、電子書籍が図書館の資料として取り入れられるとしたら、使ってみたいと思いますか？

上田 便利だと思います。あったら探しに行く時間も省かれるし、見つけやすいと思いますし。

小川 そうなったら、今までのような紙資料はもう必要ないでしょうか？

浅尾 電子書籍の一番便利なところは、単語単位で検索ができるところだと思います。情報が早く見つけられて便利だとは思いますが…紙資料は残しておいて欲しいです。

増淵 電子書籍は実物を持ち運びしなくていいので楽ですが、現在なら資料を探しに行った時に、関連する本が本棚の横や周りにおいてそれを手に取ることができるけれど、電子書籍になったらそれがなくなってしまうのではないのでしょうか。

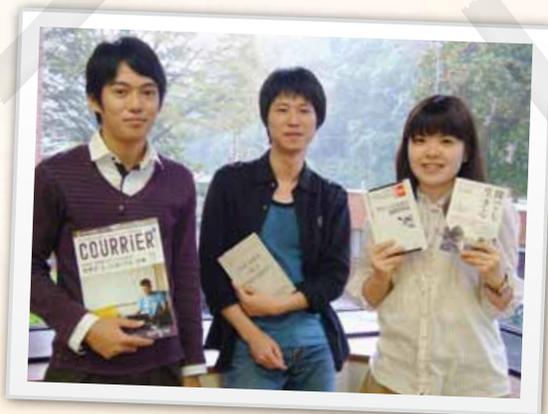
今後への期待。図書館はどうあるべきだろう？

小川 最後に、同志社大学図書館がこんなところであったらいいのというご意見を自由をお願いします。

浅尾 通販サイトで世界中の書籍を検索・購入できる時代には、新しい図書館のあり方が求められると思います。図書館には、数知れない分野の本が集められ、そこでは大勢の人々が



神学部神学科4年生
浅尾雅俊さん



各自オススメの本・雑誌を紹介してもらいました。左から『COURRIER JAPON』（講談社、2005-）、『THE IDEA OF A UNIVERSITY』by John Henry Newman 著（University of Notre Dame Press, 1982）、『グローバル社会の国際関係論』山田高敬、大矢根聡編（有斐閣、2011）、『裸でも生きる』山口絵理子著（講談社、2007）

知識を得ています。しかし、これだけでは大学の縮図ともいえる図書館の役割を達成できません。得た知識を分かち合う機会の提供というのも大学の重要な役割だと思います。図書館は静かなイメージがありますが、同志社大学図書館に、学生たちが意識的に分野を越えて議論し、知識をシェアできるような空間が欲しいです。学生同士の接触を通して本を有機的に繋ぎ合わせていける場所があれば、図書館はもっと魅力的になると思います。



法学部政治学科3年生
上田麻里衣さん

上田 資料を用いて学習する場所として、もっと学部や研究所の図書館にあるような専門的な本も図書館においてほしいです。あと、自分のパソコンのインターネットと図書館の資料を利用して学習したいので、無線LANが飛んでいないと非常に不便です。図書館や大学構内に、そういう環境の整った場所がもっと増えてくれれば嬉しいです。

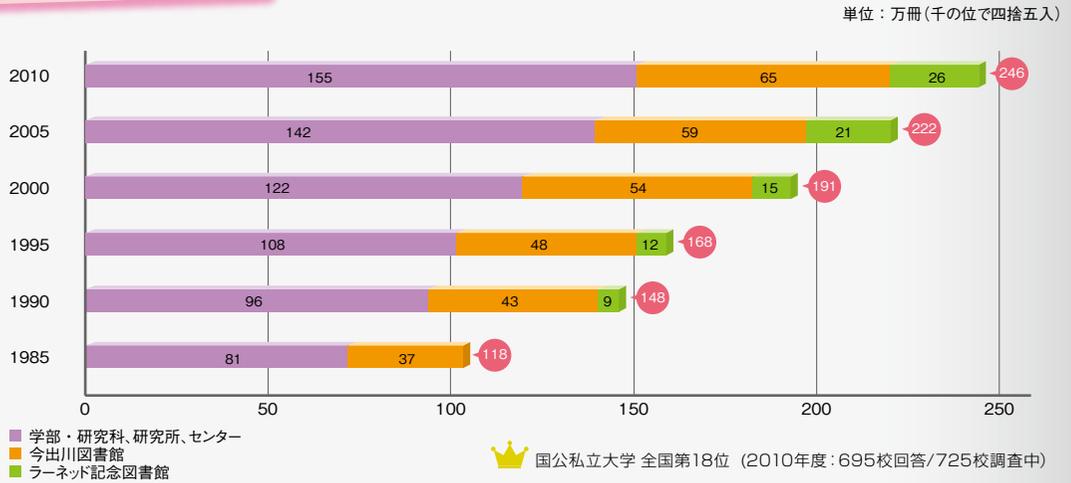
増淵 大学図書館は、資料を探すという点において非常に便利な施設であると思います。さらに欲を言えば、図書館に立ち寄った際に、書店のディスプレイの様なオススメ本を紹介するコーナーがあれば、私のような文学に疎い者でも名作に触れる機会が増えるかもしれません。

小川 今出川では年に2回、京田辺では年に4回、テーマに沿ったオススメの本などを、ポップを立てたり関連DVDを放映したりしながら紹介する学生用企画展示を行なっていますので、ぜひ活用してみてください。

本日は、貴重なお話やご意見をありがとうございました。



蔵書冊数の増加

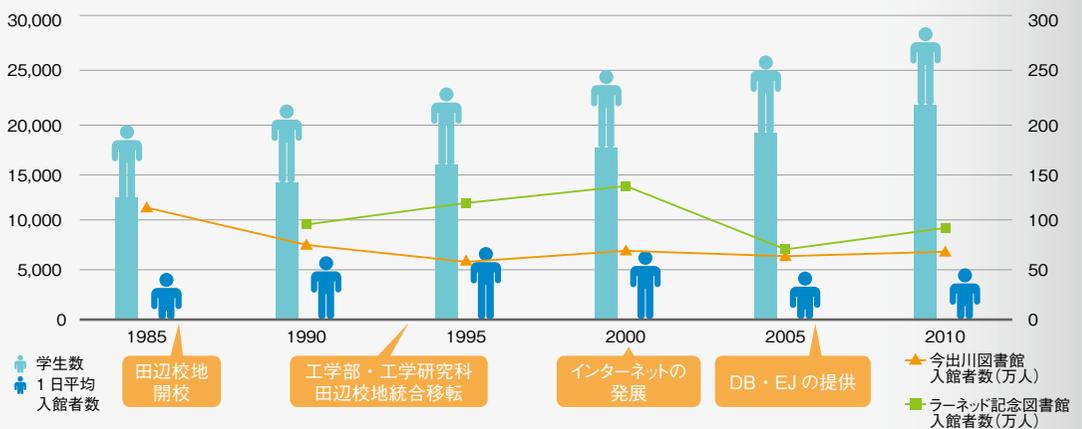


同志社大学では246万冊の図書を所蔵（両校地図書館、学部・研究科など含む）

そのうち今出川図書館に65万冊、ラーネット記念図書館に26万冊を所蔵しています。

本学および同志社女子大学の資料は DOORS（蔵書検索システム）で検索できます。所蔵館が両校地図書館（大今図・大田図）以外の資料については、図書館カウンターで利用方法をお尋ねください。

学生数と入館者数の推移



ここ20年ほどの間に学部・研究科が増え、それに伴い図書館の入館者数も増えました。また、近年は、来館しなくてもインターネットから学術情報を利用することも可能となりました。

時代とともに学術情報環境も変化しており、図書館を多くの方に有効利用してもらえよう、各種利用説明会、講習会、イベントや企画展示などを積極的におこなっています。皆さんも新たな図書館の利用方法を発見し、多様な図書館サービスを活用してください。

ここでは、1985～2010年までの同志社大学の蔵書冊数・学生数と図書館入館者数・貸出冊数の推移を統計でご紹介します。本学の図書館は全国でも有数の大規模な大学図書館であり、豊富に揃った学術資料を多くの方が利用していることがわかります。

貸出冊数の変化

単位：万冊(千の位で四捨五入)



■ 今出川校地
■ 京田辺校地
(学部・研究科、研究所、センターを含む)

👑 国公立大学 全国第6位 (2010年度:695校回答/725校調査中)

貸出冊数は年々増加し、1日平均1300冊を貸し出し中

貸出冊数増加の要因は、本学HPのシラバスの参考文献と DOORS が連携したこと、新学術情報システムの導入に伴って貸出冊数を改善したこと(旧システム:学部生は4冊が上限、新システム:開架10冊+閉架20冊にUP)、WEBからの予約・貸出期間延長・新規購入依頼など、様々なサービスが向上したことがあげられます。

図書・雑誌・新聞の資料を用いて図書館で学習する来館型の利用に加えて、HPから提供される多数のデータベース・電子ジャーナル・電子ブックを用いて、図書館以外でも学習できる非来館型の利用も可能になってきました。

図書館HP <http://www.doshisha.ac.jp/library/index.html>



インターネットから情報を得ることも可能ですが、幅広い資料に加えて、大学図書館には皆さんの知的活動を支援する環境がそろっています。課題が出た時、論文のテーマを決めたい時、もっと調べたいことがある時・・・困った時、迷った時には、ぜひ、図書館に来てください。レファレンスカウンターで必要な資料探しなどの相談もできます。



これからも、本学図書館は学習・研究のために、資料や利用サービスを充実させていきます。大学図書館を思うぞんぶん使いこなして、情報探索の達人になってください。

参考文献:「日本の図書館」(日本図書館協会)、「大学ランキング」2012年版(朝日新聞出版)、「事業報告」(同志社)



大谷さん(左)からインタビューを受けるサリムさん(右)

世界を駆ける国際派

イヤス・サリムさん

グローバル・スタディーズ研究科 博士課程 (後期)

インタビュアー 大谷 徳子さん

グローバル・スタディーズ研究科 博士課程 (前期)

同志社大学の教育理念の一つは国際主義、本学は文部科学省の国際化拠点整備事業「グローバル30」に採択されています。図書館でも沢山の留学生が勉強をしています。今回のインタビューは、グローバル・スタディーズ研究科のイヤス・サリムさんに、同志社大学や図書館についてお話を聞きました。インタビュアーは、同じ研究科の大谷徳子さんです。

大谷 まず、ご出身地と自己紹介をお願いします。

サリム 私は、イヤス・サリムといいます。パレスチナ出身です。私は、同志社大学に入学する前に国際開発援助の分野で仕事をしていました。これまでに、韓国、台湾、マレーシア、日本などの国に居住し、働いたことがあります。

大谷 同志社大学へ留学された理由と、留学生としての同志社大学の第一印象を教えてください。

サリム 同志社大学は、国際化に力を入れていることで有名なので選びました。私の研究科には、国内のみでなく世界的にすばらしい功績で知られた先生方がいらっしゃいます。また、講演会や国際会議が頻繁に開かれるのも魅力の一つです。キャンパスが広く、開かれた雰囲気なのも重要なことだと思います。来日当初は知り合いも少なかったのですが、徐々に友人も増え、アットホームに感じられるようになり、今はキャンパスライフを楽しんでいます。

大谷 図書館は利用されていますか？例えば、場所としての利用や、図書館のHPで提供するWebでデータベースや電子ジャーナルの利用もされていますか？

サリムさんは、日本の大学や韓国で英語の講師や、英語・ハングル語の翻訳をするお仕事をされた後、国際協力機構JICAで、国際開発援助の活動をされていました。JICA 理事長の緒方貞子さんとサリムさんはお知り合いです。サリムさんは緒方さんのことをとても才気あふれる凛々しいお方だといっておられました。緒方さんは新島八重さんのような方ですね。



INTERVIEW 5

Library usage of International students

Internationalism is one of the core educational philosophies at Doshisha. Doshisha University has been selected as the member of "the Global 30" project, the national project to promote Japan's internationalization. We are accepting more international students to Doshisha, and many are studying in our library.

Interviewee: Mr. Iyas Salim, Graduate School of Global Studies Doctoral Program
Interviewer: Ms. Noriko Otani, Graduate School of Global Studies Master's Program

Otani: Where are you from? And tell me something about yourself.

Salim: My name is Iyas Salim. I come from Palestine. Before coming to Doshisha, I was working in the international Development field. Currently, I am doing a Ph.D Program at the Graduate School of Global Studies.

I have had the experience of working and living in Korea, Taiwan, Malaysia and Japan.

Otani: Why did you come to Doshisha University and what's your early impression of life as an international student here?

Salim: I chose Doshisha because it is well-known for its international spirit and outlook. In my department, the scholars are Globally renowned for their capabilities and intellectual contribution both in Japan and internationally. I very much appreciate the frequently-held public lectures and international conferences. The University atmosphere is wide and open which is important. Campus life at first was a bit difficult as I only knew few people. However, gradually I was able to

Mr. Salim used to teach English at universities in Japan and Korea. He is also experienced translating on English materials into Hangul. Then, he joined the Japan International Cooperation Agency (JICA). He said that Ms. Sadako Ogata, JICA president is a woman of many abilities. Isn't that just like Yae Neesima?





イヤス・サリムさん Mr. Iyas Salim
Graduate School of Global Studies Doctoral Program

Profile

パレスチナ生まれ ビクトリア大学社会科学部(カナダ)卒業
寒梅館ハーディホールの講演会に頻繁に参加、1階ラウンジがナイス!と好印象。京都では北大路から北山近辺の鴨川、小京都といわれる飛騨の高山が好きとのこと。

He was born in Palestine. He graduated from the Faculty of Social Sciences, University of Victoria(UVic). His favorite places are Kambaikan in Doshisha, Kamogawa in Kyoto and Hida Takayama in Japan.



「Kimse Yok Mu」(トルコの人道支援 NGO)で研究中のサリムさん



大谷 徳子さん Ms. Noriko Otani
Graduate School of Global Studies Master's Program

Profile

兵庫県神戸市生まれ 同志社大学文学部英文学科卒業
好きな場所は、博覧館の大学院読書室、出町柳のミスタードーナツでリラックス。

She was Born in Kobe City. She graduated from the Faculty of the Letters of the English Department at Doshisha University. Her favorite places are Graduate School Library in Doshisha and "mister Donut" in Kyoto.



NGOのスタッフとインタビューの翌日にイスタンブールへ

サリム 図書館は、主に、本を借りたり、新聞を読んだりするのに使っています。印刷のための設備も整っているので、電子ジャーナルを利用するのも便利です。

大谷 出身大学と同志社大学の図書館の違いを教えてください。また、同志社大学図書館の利点や弱点、よりよい図書館にするためにはどうすればよいかなど、是非、ご意見を聞かせてください。

サリム 学部時代はカナダのビクトリア大学にいたのですが、その図書館は、読書室の雰囲気はかなりカジュアルだったので、リラックスして新聞や雑誌を読むことができました。その反面、同志社大学の図書館はコンピュータやインターネット、印刷などの設備が充実していて、静かに勉強できるのがいいと思います。この図書館には、日本

語の図書は沢山ありますが、留学生のためにも色々な言語の図書があると便利です。

大谷 そうですね。私もニュージーランドの大学に留学したことがありますが、深く座ってくつろぎながら本が読めるソファなどがあり、気楽に読書など、好きなことがきたのを覚えています。気軽に図書館を利用できるのはとてもいいですね。

サリムさん、大谷さん、今日はありがとうございます。私たちは、皆さんの研究が実りあるものになることを願っています。さらに利用者に優しく使いやすい図書館にしたいと思います。新島先生の肖像画前で撮影の際に、敬意を表されたサリムさんを見て、真の同志社人だと感じました。



make new friends and feel more at home.

Otani: Do you use the library? If so, what do you use it for? For example, for studying, accessing databases on the library website or getting electronic journals.

Salim: I use the library mainly to borrow books and read the daily newspapers in the reading section. Electronic journals are also a useful source especially when using the available printing equipment.

Otani: How different is the Doshisha library than that of your previous school? Please tell us the strong and weak points of the library and what can be done to make it better?

Salim: I did my undergraduate degree at Victoria University in Canada. At that university, the reading room had a rather casual and relaxed atmosphere for reading newspapers and magazines. On the other hand, Doshisha library definitely has good facilities such as computers, internet, printing equipment and calm space for studying. Naturally, Doshisha library has a lot of Japanese books. But if the library had access to a wider range of foreign

language books it would be very useful for the international students.

Otani: Right. When I studied in New Zealand, there was a section in the library where people could sit on a very comfortable sofa and do whatever they felt like. I think it would be great if we could use the Doshisha library more casually.



Infront of a portrait of Joseph H. Neesima



Thank you for your cooperation. We hope you have success studying here. We make every effort to a comfortable and useful library for our patrons. Mr. Salim is now a Doshisha man, and pays his respect to the portrait of Joseph Hardy Neesima.

デューイ文庫

The John Dewey & Pragmatism Collection

同志社デューイ研究の礎

文学部教授
新 茂之 先生



同志社大学の図書館に「デューイ文庫」があるのを知っているでしょうか。図書館のどこかに「デューイ文庫」というコーナーがあって、そこに書籍が集められているわけではありませんから、「デューイ文庫」の存在をはっきりと認識しているひとは、そんなに多くはないでしょう。正直なところを言えば、わたし自身、「デューイ文庫」にはじめて接したのは、同志社大学院文学研究科に進学したときでした。

「デューイ文庫」の創設者—吉川哲太郎先生

わたしの先輩に、デューイの哲学を専門的に研究しているひとがいて、その先輩の導きで、「デューイ文庫」という名のもとで集められている一群の書物があるのを発見しました。「デューイ文庫」というのは、デューイという人物にかかわりのあることが分かるでしょう。デューイ、すなわち、ジョン・デューイ

(John Dewey)は、19世紀の終わりごろから20世紀の中葉にかけて、アメリカで活躍した哲学者です。

同志社大学の「デューイ文庫」は、デューイの思想を研究する上で欠かせない文献から成っています。この文庫の端緒は、1931年から1970年まで同志社で教鞭を執られた吉川哲太郎先生の寄付金によって、1970年に設立された基金にあります。吉川哲太郎先生は、つぎのように語られています。「ほどなく迎える退職のときには、同志社の一隅に、デューイの文献を集める基金を寄贈し、そこが、それぞれの興味で若者がデューイと語る場となればと夢みている」(吉川哲太郎「デューイと私」、同志社大学文化学会編『文化学年報』第19輯、11頁、1971年発行)。

教育哲学者としてのデューイ

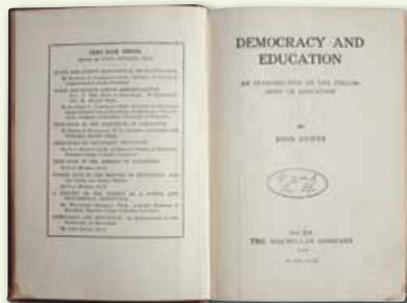
吉川哲太郎先生の研究業績に「デューイ教育学の理解と展開」(1954年)や「デューイの教育人間学」(1969年)などがあることから見てとれるように、デューイは、教育に強い関心を示した哲学者です。デューイの『民主主義と教育』は、いま読んでもその輝きを失っていない、教育哲学に関する古典的名著です。吉川哲太郎先生も、この著作に基づいて講義をされていました。このようにして、デューイは、特に日本では、教育哲学者として知られ、戦後まもなくは、子どもたちは、デューイの考え方に基づいた教育を受けました。

しかし、吉川哲太郎先生の指摘にもあるように、そのような教育の方法は、ややもすると、子どもたちの「学力低下」を招いてしまいます。デューイは、子どもたちが具体的な生活のなかで直面する問題を实际的に解決していく過程からしか中身のある知識と技術は育たない、と考えるので、デューイに従えば、授業を静かに聞いて机の上だけで理解している情報は、实际的な意味を欠いています。みなさんも一度は思ったことがあるように、たとえば、1元2次方程式の解に関する公式が、いったい、わたしたちの日常的生活にどのような役に立つと言うのでしょうか。



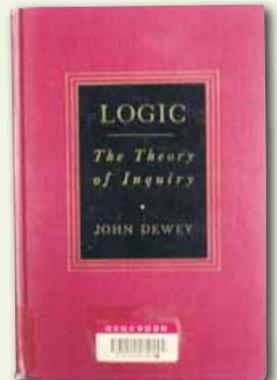
「Art as experience」
by John Dewey
(Capricorn Books, 1958, c1934)

DOOS 大今図 B2階書庫
701.11 || D3-1A



「Democracy and education : an introduction to the philosophy of education」
by John Dewey
(Macmillan, 1916)

DOOS 大今図 3階北書庫 371.1 || D-1C



「Logic : the theory of inquiry」
by John Dewey
(Holt, Rinehart & Winston, c1938)

DOOS 大今図 B1階書庫
133.96 || D-14



デューイ研究関連の学位論文も多数所蔵



〔John Dewey autograph letters〕

大今図 貴重図書室 133.96 || D-23 || 1~8

デューイの考え方にある難点

このような見方を短絡的に推し進めてしまえば、日々の生活にかかわりのない知識や技術は、どのような意味もないので学ばなくてもよい、というような、教育について、偏った捉え方が生まれてきます。あるいは、普段の生活から起こってくる問題に取り組むところに意味がある、という点を強調しざれば、そうした生活とは切り離されたところで成立している概念の意義が見えなくなってきます。

卑近なところで言えば、大学の入学試験で出てくるのは、わたしたちの直面する現実に密接に結びついた具体的な知恵ではなく、わたしたちの生活とは分離して考察できもする抽象的な事柄です。日常から湧きでてくる問題の解決に必要な知識と技術に力点を置けば置くほど、確かに、それらの豊かな意味を体得できるけれども、大学の入学試験に合格することは、おぼつかなくなります。子どもを大学に入れることに集中している社会の中では、そのような事態は、「学力低下」に映るはずで、吉川哲太郎先生は、いっそう哲学的な視点から、こうした問題に真摯に取り組んだデューイ研究者のひとりです。

吉川哲太郎先生は、「デューイ文庫」が、デューイとともに学生たちが自由に哲学的な議論を繰り広げていく場所になるよう夢みている、とおっしゃいましたけれども、「それがただの夢でなく、確かに現実になると強く感じている」(上掲書、11頁)と結んでおられます。吉川哲太郎先生の言葉どおり、同志社大学は、これまで、日本のデューイ研究の拠点となり、日本を代表するデューイ研究者を輩出してきました。みなさんもぜひ「デューイ文庫」を訪れ、大学での知的探究の厚みを感じとってください。

「デューイ文庫」の役割

「デューイ文庫」は、このようなデューイ研究者の専門的な探究を支えていけるだけの十分な資料を所蔵しています。しかも、デューイの思想に関する研究書のみならず、アメリカの各大学で提出されている博士論文も納めているので、デューイ研究者として歩みを進めていこうとしている大学院生にとっては、デューイ研究の水準を確認できる機会も提供しています。

そればかりか、デューイ直筆の手紙もあり、さまざまな著作の背後にあるデューイの問題意識を垣間見ることができ、なによりも、そうした手紙を通じて、デューイの生きた時代に思いを馳せながら、デューイを近くに感じられるはずで、

「デューイ文庫」は、その創設以来、同志社に集うわたしたちのために、知的好奇心をかき立てないわけにはいかない学究的空間を、つぎの時代を見すえながら、絶えず新たに産み出してきたのです。



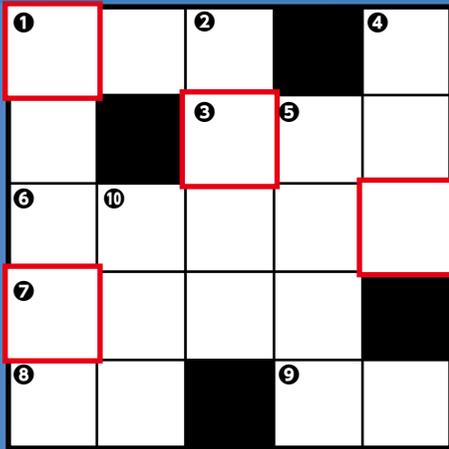
〔Studies in logic〕
by members of the Johns Hopkins University
(Little, Brown, 1883)

大今図 貴重図書室 116.3 || P170
—デューイと同じプラグマティズムの系譜に属する
バースとその教え子による書の初版本—

クロスワードパズル



Let's Try!



- 1 下のヒントを参考にマス目を埋めます。
- 2 赤色に囲まれたマス目の文字を並び替えて、本学図書館にも関係のある言葉を作ってください。

解答

--	--	--	--

ヨコのカギ

- 1 俗に「リズム隊」といわれ、バンドにおいてはドラムとともに楽曲のビート部分を担当しています。
- 3 「血の伯爵夫人」と呼ばれ、吸血鬼伝説のモデルにもなったエリザベート・バートリは若い娘のこれを搾り取っていました。
- 6 トーベ・ヤンソン作「ムーミン」シリーズに登場し、ミイとは姉弟関係にあります。ハモニカを大事にしています。
- 7 「荒野の○○○○」「真昼の○○○○」など、これを題材にした映画は多いです。
- 8 健康や美の維持のために、温浴・水浴をベースに、くつろぎと癒やしの環境とさまざまな施術や療法などを総合的に提供する施設を指します。
- 9 「アール・○○」は1920～30年代に流行したデザイン様式で、華やかな幾何学的模様などが特徴です。エンパイアステートビルやクライスラービルはこれらの様式を取り入れています。

タテのカギ

- 1 17世紀スペイン絵画の巨匠でフェリペ4世の宮廷画家でした。代表作は「ラス・メニーナス」。
- 2 イギリスの小説家で聖職者でもあり、また、風刺家としても有名でした。代表作は「ガリバー旅行記」。
- 4 ポリペプチドに無数の糖鎖が枝状に結合した糖たんぱく質の一種で、納豆やオクラ、山芋などに含まれています。
- 5 英語ではone's dominant armなどといいます。日本人には右が多いといわれています。
- 10 かけ声ばかりで、実行しないことを「○○○の肥やし」といいます。

アンケート：図書館長からの質問

クロスワードパズルの回答と一緒に、該当する番号を書いて応募してください。

Q 「図書館はあなたにとってどんな場所ですか？」

- A
- ①「図書館の資料を用いた学習の場所」
 - ②「図書館の図書を借りる場所」
 - ③「図書館の資料とは無関係の学習スペース」

正解者の中から、抽選で5名様にすてきなプレゼント!

応募BOXは、両校地図書館メインカウンター横にあります。

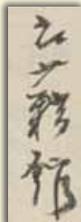
締切 2012年1月13日 金 17:00
(解答用紙は返却しませんのでご了承ください)

当選者と答 2012年1月20日 金 発表
今出川：今出川図書館前掲示板
京田辺：ラーネット記念図書館メインカウンター前

本冊子 名前の由来

1885年12月18日の新島襄の日記「出遊記」には、「書籍館」という言葉が記されている。これは同志社の初代図書館(現有終館)の定礎式に臨んだときのものである。

この図書館報の名称「書籍館」(しょじやくかん)は、2009年11月の創刊にあたり、新島がいた124年前の原点に戻って、同志社大学図書館を再考したいという思いから名付けたものである。



同志社大学 図書館報 vol.5
書籍館 2011年12月1日発行

編集・発行:同志社大学図書館
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel:075-251-3960 Email:ji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp
http://www.doshisha.ac.jp/library/